

「みんなちがって、みんないい」

お互いの違いを認め、尊重する。それぞれに進む道はあるけれど、それぞれの想いを重ね合い、支えあいながら、大切なもの（平和）を守り育てていく。

そんなメッセージをそれぞれに方向性を持つ小さな屋根が重なり、支えあい、円陣をつくることで表現しました。

未来に向かって「スクラム」を組む展望・休憩施設を提案します。



01 過去から現在、戦争から平和を歩く

激戦を繰り広げた74高地。時は流れ、戦争の悲惨さを今に伝える旧海軍壕。壕内の壁に刻まれたつるはしの痕跡は、当時の息遣いが今にも聞こえてくるようでした。手りゅう弾の痕跡は、体中に痛みが伝わるほど胸を締め付けられました。

当時を憂い、拾い集めた戦争の痕跡は、平和の尊さを改めて教えてくれました。本施設は、旧海軍壕を訪れた後の終点として、壕で得た体験をもとに、現代の発展や自然の豊かさを一望しながら、平和の尊さを再確認する場を目指します。

旧海軍壕ってどんどこだろう～



① 駐車場



大田さんの電文には心打たれたなあ...



② ビジターセンター
旧海軍壕入口



つるはしの跡、すごかったね～
当時をおもうと胸が痛いね～



③ 旧海軍壕出口

ふっ、いい景色だね～



④ 展望・休憩施設

3千人も身を隠していた
なんて想像がつかないね！

戦争を振り返りたくないね！

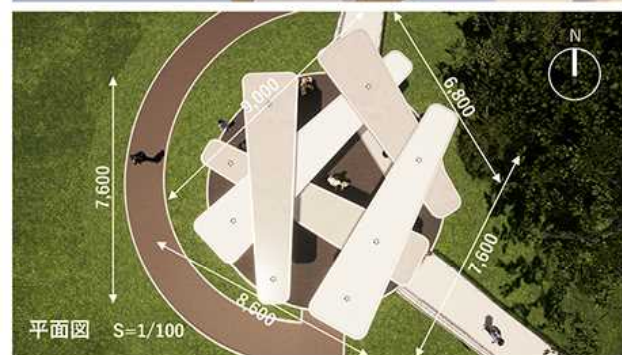
ここが写真で見た
焼野原とは思えないね

おもしろいカタチの屋根だね
...へーそんな意味があるんだあ

この平和を守らなきゃね

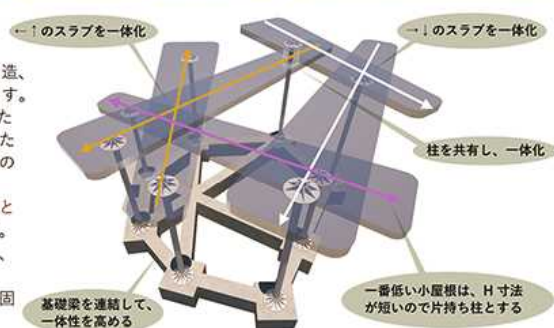
息がつまりそうだな...

電文は知っていたけど、
ここから打たれたものだったんだあ



02 構造形式及び構造の考え方

本計画の構造形式は、柱をφ216×23のS造、小屋根を厚200～250のRC造を採用します。耐久性の観点から小屋根をRC造としましたが、固定荷重が増大し、片持ち柱で計画した際に鉄骨柱の径が大きくなるため、鉄骨造のメリットが活かせません。そこで小屋根を連結させ、相互作用することで、全体で水平力を負担する計画とします。その他、柱脚は根巻きコンクリートを施し、柱脚の固定と鉄骨部の腐食を防ぎます。また、ベンチはコンクリート製とし、柱脚固定の一助とします。



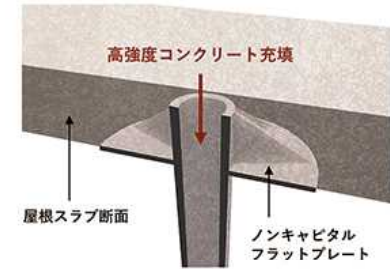
03 ノンキャピタルフラットプレート工法の採用

パンチングシャー対策として、ノンキャピタルフラットプレート工法を採用します。パンチングシャー対策はスタッドによる定着が一般的ですが、スタッドの定着長さに限界があるため、本数が増え、軒裏や屋根面にキャピタル(柱頭)を設ける必要があります。軒裏のキャピタルは軒天と柱の軽快さを損なう恐れがあり、また、屋根面のキャピタルは、中景から目立ってしまい見た目に美しくありません。



04 コンクリート充填鋼管柱(CFT)工法の採用

鋼管柱は、耐震性能の向上の観点からCFT工法を採用します。耐久性及び強風による吹上りや飛来物による破損を考慮し、屋根はRC造としていますが、その分固定荷重が増大します。そこで、CFT工法を採用することで、鉄骨とコンクリートによる相乗効果で柱の剛性を高め、地震時における座屈変形対策など、耐震性能の向上を目指します。



05 ライフサイクルコストの低減

目や手が行き届きにくい屋根については、耐久性の高いRC造を採用することで、メンテナンスの頻度を減らし、補修が容易な柱は開放性の観点からS造としました。その他、建築及び外構に使用する材料は、耐久性の高い材料選定を行うと同時に、建物の構成をシンプルにすることで部品点数を減らし、メンテナンス周期の長期化を図ります。また、仕上材(ボードや軒天材など)を設けていませんので、飛来物や暴風による破損の心配がありません。

07 建築概要

階数：平屋建て
面積：40㎡(水平投影面積とする)
構造：屋根RC造・柱S造

06 Scrumベンチ

小屋根のようなオリジナルベンチを提案します。01でご提案した動線上にベンチを設置することで、施設全体の一体感を演出します。



仕上：屋根1→コンクリート打放しの上打放し保護塗装
屋根2→コンクリート打放し補修の上装仕上塗装
柱→溶融亜鉛メッキの上フッ素樹脂塗装